

添付資料

教職大学院の授業科目の履修により修得させるべき資質能力の設定目標

本教職大学院の授業科目の履修により、修得させるべき資質能力として設定する一般目標・到達目標を以下に示した。

(1) 教育課程の編成及び実施に関する領域

〔扱う内容（授業科目）〕

- 「学習指導要領とカリキュラムづくり」
- 「学校カリキュラムとそのデザイン」
- 「個に応じた指導とカリキュラムづくり」

〔一般目標〕

- a) 教育課程編成の基本となる学習指導要領の変遷を踏まえるとともに、現行の学習指導要領の特色に基づいて教科・領域等のカリキュラムづくりができる。
- b) 各学校の実状を見据え、当該校の教育課程全体の編成について、複数の計画を立て、それぞれ予想される効果等を検証した上で、最善の学校カリキュラムのデザインをつくることことができる。
- c) 児童生徒の個性や特性等に応じた教科・領域等のカリキュラムを、効果的な教育形態、学習形態等を配慮しながら作成することができる。

〔到達目標〕

(A群) - 教員個人としての資質に関する内容（以下同じ） -

- ・学習指導要領の変遷について知悉している。
- ・現行の学習指導要領の内容について熟知している。
- ・現行の学習指導要領に基づき、カリキュラムの構成や計画を立てることができる。
- ・児童生徒等の状況、教職員集団の力量等を鑑み、適切なカリキュラムを作成し、指導することができる。
- ・カリキュラムの計画と評価の方法を言語化することができる。
- ・カリキュラムに効果的で多様な教育形態・教育活動を取り組むことができる。
- ・特に得意とする教科・領域等の分野でのカリキュラムの計画と評価の方法等を身につけることができる。

(B群) - 同僚・教員集団との協力に関する内容（以下同じ） -

- ・歴代の学習指導要領の概要や現行の学習指導要領の内容を全教科等の視野に立って生かすことができる。
- ・カリキュラムづくりに向けて、他の教職員をリードする知識と技量とを有している。
- ・教育活動の実態に即してカリキュラムの編成に携わることができる。

(2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域

〔扱う内容（授業科目）〕

「教科等の特性に応じた学習指導・方法技術」

「教科指導と教材研究・教材開発」

「特別活動の計画・実施・評価」

〔一般目標〕

- a) 全教科に共通する教科等の授業の在り方や、学習指導に関わる指導方法や指導技術等について体系的に理解する。
- b) 教科指導についての教材研究の方法や教材開発の在り方について、実際の授業の構成や立案を想定して適切に行うことができる。
- c) 教科等の学習と学校行事やクラブ活動、学級会活動等とを有機的に関連づけ、計画・実施し評価することができる。

〔到達目標〕

(A群)

- ・各教科の特性や児童生徒等の実態を踏まえた学習指導の在り方をよく理解し、示範授業等ができる。
- ・指導案を作成し、児童生徒等の実態に応じて変更でき、それを言語化できる。
- ・全教科に共通する授業を構成する要件（発問、板書、評価等）を身につけることができる。
- ・少なくとも一つの教科等の専門性に卓越し、常に最新の内容と方法とを獲得する手だてを熟知している。
- ・児童生徒等とその達成に関する評価能力が優れている。
- ・学力の育成に対して、児童生徒の関心・意欲が喚起できる優れた指導力と人間力とを持ち合わせ、優れた結果を出すことができる。
- ・児童生徒等の反応を確かに読み取り、つまづきや間違いを生かす発想を有している。
- ・児童生徒の関心・意欲に応じて適切な特別活動の計画や実施・運営をすることができる。
- ・児童生徒等との相互作用に着目できる。
- ・自分の実践を振り返り、評価・改善をする方法を知っており、実践に生かすことができる。
- ・授業の診断と問題が発見でき、解決の手立てを発見し、それを実行し言語化できる。

(B群)

- ・指導方法や授業技術等についての的確な評価をすることができる。
- ・教科等の指導に対して、他の教員に助言や支援をすることができる。
- ・授業記録・実践記録に基づいて校内研修を組織することができる。
- ・教育実習生や新人教員に対して、適切なアドバイスや手助けを行うことができる。

- ・教科等以外の計画や運営に対して児童生徒のやる気を喚起できるように、中・長期的な学校運営を見通した指導計画を立案することができる。
- ・テーマに基づく研究を実施することができる。
- ・授業記録、実践記録に基づいて校内研修を組織することができる。

(3) 生徒指導及び教育相談に関する領域

〔扱う内容（授業科目）〕

- 「児童生徒理解と生徒指導」
- 「教育相談・特別支援教育」
- 「人間的成長に関する理論と実践」

〔一般目標〕

- 児童生徒等の生徒指導・進路指導上の諸課題を総合的に理解するとともに、その代表的な指導方法（生徒指導、カウンセリング、人間関係づくり、集団づくり、キャリア教育、保護者・関係機関との連携等）について熟知する。
- 各児童生徒等の生徒指導上の諸課題に対して、適切な指導方法を選択する能力を養うとともに、生徒指導・教育相談に当たる他の教員に対して適切な助言・指導ができる。
- 児童生徒等が人間的成長に関する諸課題（自らの生き方や在り方等）について考えることを適切に指導・援助するとともに、主体的に進路を選択し、進路先で適応できる力を伸長するための指導・援助について習熟する。
- 特別な支援を必要とする児童生徒と環境としての学級風土や教師等との関係、校内の協力体制や保護者や関係機関との連携等について適切に対応できるとともに、他の教職員に対しても適切に助言・指導ができる。

〔到達目標〕

(A群)

- ・生徒指導の趣旨を理解し、当該校の実状に応じた適切な指導方針を立案することができる。
- ・児童生徒等の内的葛藤や問題行動等に対する理解と評価に優れている。
- ・児童生徒理解、生徒指導についての多様な方法を理解しており、対策や予防等について具体的に多様な方法を実践することができる。
- ・カウンセリングマインドを理解するとともに、相談技法を身につけ、教育相談に生かすことができる。
- ・児童生徒等が自らの心身の健康を維持するために努力し、生活を営むことができるように指導・支援することができる。
- ・児童生徒等に人間的成長に関する諸課題（自らの生き方や在り方等）について考えさせ、目標をもって自らが向上するための活動を指導・支援することができる。

- ・キャリア教育を通じて、児童生徒等が自らの進路に関する情報を収集・取捨選択し、自らの生き方の目標等に応じて、適切な進路選択ができるよう支援することができる。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒と学級風土や教師等との関係、保護者や関係機関との連携等について適切に対応することができる。
- ・生徒指導・教育相談・進路指導、相談と教科等の指導の関連を図り、両面からの指導ができる。
- ・児童会、生徒会活動への指導についての知識を有している。

(B群)

- ・生徒指導・教育相談・進路指導等について、他の教職員の相談に乗ることができる。
- ・問題行動等に対して、教職員集団を組織化し対応できるようにする。
- ・生徒指導・教育相談・進路指導等を適切に行えるよう関係機関や地域等と密に連携し、組織化することができる。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒と学級風土や教師等との関係、校内の協力体制や保護者や関係機関との連携等について、他の教職員に対しても適切に助言・指導ができる。
- ・心身症や精神疾患等に関する知識を有し、適切な対応を他の教員に指導・助言できる。

(4) 学級経営及び学校経営に関する領域

〔扱う内容(授業科目)〕

「教育行政・学校経営の現状と課題」

「学級経営の実践と課題」

「教員研修実務研究」

〔一般目標〕

- 教育行政(特に教育委員会の現状等)の歴史と意義、現状と課題とを踏まえ、組織としての学校や学級の在り方について、現代的な教育課題を踏まえながら総合的に理解する。
- 学校や学級の実状や特性を把握し、適切な学校経営・学級経営を行う計画を立て、その実施に当たって指導的な役割を果たすことができる。
- 校内研修の在り方を考える上で、巨視的な立場から教員研修の現状を実務をとおして研究し、その意義と課題とを把握する。

〔到達目標〕

(A群)

- ・学校経営の業務を遂行する上で、教育行政の果たす役割や意義等を把握する。
- ・学級経営・学年経営・学級経営に関して、他の教職員と適切に情報を共有すること

ができる。

- ・円滑な校内研修の進め方を実務をとおして研究し、校内研修のリーダー的な役割を果たすことができる。
- ・授業づくり、集団づくりを含め、学級経営に優れている。

(B群)

- ・学級経営に関して、他の教職員に指導・助言することができる。
- ・校内の組織づくりや校内研修の組織づくりに手腕を発揮し、校内のリーダーとして他の教職員に指導・助言することができる。
- ・教育行政についての基礎的な知識を有し、学級経営や学校経営の円滑な教育活動を展開することができる。
- ・組織マネジメントに関する知識・知見を活用し、学校の教育活動を他の教職員とともに効果的に推進することができる。
- ・他の教員や外部の専門家と協働し課題解決できる。
- ・学校間の連携、共同・協働の在り方について熟知し、効果的な教育活動を展開することができる。
- ・学校評価の理念と方法を熟知し、その学校の状況に即した具体的な在り方を考え、それを実施できる。

(5) 学校教育と教員の在り方に関する領域

〔扱う内容(授業科目)〕

「生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割」

「学校・家庭・地域の連携と教員の在り方」

「子ども理解・保護者理解」

〔一般目標〕

- a) 社会の中における学校の役割、国際化・情報化社会における学校の役割を的確に理解し、教員としてふさわしい在り方について考え、実践に移すことができる。
- b) 子どもを正しく理解するための教員の在り方を、保護者理解や家庭や地域との連携の視点から的確に把握する。
- c) 社会の急激な変化に対応するための教育をさまざまな視点から眺め、その現状と課題とを把握しながら、それに対応するための力量と他の教職員をリードできるような資質を形成する。

〔到達目標〕

(A群)

- ・公教育の役割について理解するとともに、家庭や地域社会との関連における学校・学校教育の役割について深く考察することができる。
- ・保護者や地域の人たちとの信頼関係を構築することができる。

- ・生涯学習からみた学校教育の課題を理解することができる。
- ・国際化・情報化社会における学校教育の役割について理解を深めることができる。
- ・教育の論理から見た生涯学習・国際化・情報化社会の在り方について考えを深めることができる。
- ・社会や地域に開かれた学校教育の具体的展開について認識することができる。
- ・「よき教育実践を行う教員」の在り方について省察し、資質向上をさせることができる。
- ・自己を客観的に省察できる。
- ・研究的な実践活動ができ、その成果を効果的・説得的に説明できる。
- ・教員の服務について理解し、適切に実践できる。

(B群)

- ・社会の急激な変化に対応するための教員の在り方について、他の教職員に指導・助言することができる。
- ・保護者等からの意見・要望等に適切に対応し、学校教育の改善・充実をリードすることができる。
- ・保護者や地域の人たちとの円滑な関係を学校のリーダー的な存在として確立できる。
- ・さまざまな考えをもつ多様な他者の尊厳性を認め、共感するとともに、円滑な関係を築ける教員としてのコミュニケーション能力を備えることができる。
- ・児童生徒に実態に応じ、家庭教育の在り方等を保護者と十分に話し合うことができる。

なお、分野別科目における科目の内容については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「ウ 教育課程の編成の考え方及び特色」で、共通科目（必修科目を中心として）との内容上の関連性・系統性を明確にし、「カリキュラムの関連性」として詳述している。